

コルソス CSDJ リリースノート

対 象 : CSDJ-B、CSDJ-H、CSDJ-D

バージョン : 01.10.00

リリース日 : 2021.7.29

1. ファームウェア・アップデートについて

1.1 事前確認

バージョン 01.08.00 以前のファームウェアから、バージョン 01.10.00 へファームウェア・アップデートを行う場合、必ず、コルソスのファームウェアを、バージョン 01.09.00 へ更新してから、バージョン 01.10.00 へ更新してください。

(バージョン 01.08.00 以前のファームウェアから、バージョン 01.10.00 へのファームウェア・アップデートはできません。)

1.2 ファームウェア・アップデート手順

総合説明書「工事編」の「ファームウェア・アップデート」に従って実施してください。

2. リリース内容

【セキュリティ強化】

(1) セキュリティ強化対応

ブラウザコントロールのセキュリティ強化および、OSS の更新を行いました。

(2) HTTPS 機能追加 (詳細は、3.1 項参照)

ブラウザコントロールの HTTP 通信において、暗号化(HTTPS)に対応しました。

(盗聴などの攻撃対策)

(3) パスワードのセキュリティ強度チェック機能追加 (詳細は、3.2 項参照)

パスワードのセキュリティ強度チェック機能を追加しました。管理者用パスワードが初期値のままなど、セキュリティ強度の低いログインパスワードではシステムデータ設定の変更ができなくなります。

(不正ログイン対策)

(4) ログインロック機能追加 (詳細は、3.3 項参照)

ログインロック機能を追加しました。ブラウザコントロールのログイン時に 10 回連続で認証に失敗すると、60 分間ログインできなくなります。また、ログインロック時、ログイン履歴にログインエラー(Login Error)の履歴を蓄積するようになりました。

(不正ログイン対策、不正アクセス履歴を検知するための対策)

(5) ファームウェアのアンチロールバック機能追加

ファームウェアのアンチロールバック機能を追加しました。ブラウザコントロールのファームウェア・アップデートにおいて、動作中のファームウェア・バージョンより古いバージョンに更新できないようになります。

(脆弱性の存在する古いファームウェアの使用をできなくするための対策)

(6) システムデータ暗号化機能追加

ブラウザコントロールのシステムデータ・セーブで、PC にダウンロードされるシステムデータファイルの暗号化機能を追加しました。バージョン 01.10.00 以降の装置で作成したシステムデータファイルは、バージョン 01.09.00 以前の装置で使用することができなくなります。(バージョン 01.09.00 以前で作成したシステムデータは、バージョン 01.10.00 以降でも使用可能です。)

(システムデータ改ざん対策)

(7) フォーム入力欄の自動補完を無効化

ブラウザコントロール時のフォーム入力欄の自動補完機能(ブラウザが入力データを記憶し、自動補完やオートフィルなどを行う機能)を無効化しました。

(情報漏洩対策)

【機能改善】

- (8) 「コルソス」間連動機能を改善（連動判定条件の追加）（詳細は、3.4 項参照）

連動元コルソスの端末 ID の識別などに対応し、端末 ID と通報種別の組み合わせにより、連動するデジタル出力を設定できるよう機能を改善しました。

- (9) アナログ入力のデジタル出力連動機能を改善（「制御なし」の追加）（詳細は、3.5 項参照）

アナログ入力のデジタル出力連動機能について、「ON」と「OFF」に加えて「-」（制御なし）を設定できるように機能を改善しました。

- (10) アナログ詳細記録条件を変更

バージョン 01.09.00 以前のファームウェアでは、記録条件は、(1) 定時記録：有、および (2) 通報グループにデータ通報先が 1 宛先以上設定 でしたが、バージョン 01.10.00 以降のファームウェアでの、記録条件は、(1) 定時記録：有 のみに変更しました。

- (11) プライマリ DNS アドレス初期値を変更

プライマリ DNS アドレスの初期値を、未設定から 192.168.4.1 に変更しました。

- (12) 自動応答時の DTMF[C]送出タイミングを変更

2024 年 1 月以降に実施される固定電話（加入電話・INS ネット）の IP 網移行対応のため、自動応答時の DTMF[C]の送出タイミングを変更しました。

- (13) E メール通報時のエラーコードを変更

E メールによる通報で異常終了した場合のエラーコードを細分化しました。

- (14) データコントロールの切断処理タイミングを変更

データコントロールの切断処理タイミングを変更しました。

【不具合対応】

- (15) 帳票データ（統計履歴、累計履歴）に関する不具合を修正

帳票データ（統計履歴、累計履歴）の集計と NTP での時刻補正がほぼ同時に発生した場合に、意図しないタイミングで帳票データが記録される場合がある不具合を修正しました。

3. 詳細情報

3.1 HTTPS 機能追加

「コントロール設定_ブラウザコントロールの設定」に、Web サーバ設定が追加されました。HTTPS を使用することでブラウザコントロールのデータ通信を暗号化することができます。

初期状態は、HTTP の利用設定です。

ブラウザコントロール		
Webサーバ	<input checked="" type="radio"/> HTTP <input type="radio"/> HTTPS	
ポート番号	80	
装置状態表示	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	
管理者	ID	user
	パスワード	user 強度：(弱い)

3.2 パスワードのセキュリティ強度チェック機能追加

パスワードのセキュリティ強度チェック機能を追加しました。

管理者パスワードが初期値のままの場合や、パスワード強度が（弱い）以下の場合、システムデータ設定画面を開くと、「コントロール設定_ブラウザコントロールの設定」が表示されます。パスワード強度が（普通）以上となることを確認して、設定してください。

ブラウザコントロール		
Webサーバ	<input checked="" type="radio"/> HTTP <input type="radio"/> HTTPS	
ポート番号	80	
装置状態表示	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	
管理者	ID	user
	パスワード	user 強度：(弱い)

3.3 ログインロック機能追加

60分以内に、10回連続でログインに失敗した場合、ログインがロックアウトされます。ロックアウトまでのログイン失敗回数が、残り5回以下になった場合、ロックアウトまでの残り回数が表示されます。

ロックアウトされた場合、たとえ正しいID、パスワードでログインを実施しても「ID、パスワードエラー」が表示され、ログインすることができなくなります。このとき、ログインロックが解除されるまでの時間(1～60分)が表示されます。ログインがロックアウトされた場合、本装置を再起動するか、最後にログイン失敗してから60分経過後に、ロックアウトが解除されます。

3.4 「コルソス」間連動機能を改善(連動判定条件の追加)

連動元コルソスの端末IDの識別などに対応し、端末IDと通報種別の組み合わせにより、連動するデジタル出力を設定できるよう機能を改善しました。

「コントロール設定_通報受信連動の設定」に、以下の条件が追加されます。

- ・ 連動要因に「端末ID」を指定可能
- ・ 「端子番号」の範囲指定が可能(通報種別がデジタル入力、アナログ入力の場合)
- ・ 「端末ID」、「通報種別」、「端子番号」および「状態」において、「空欄」/「- (Any設定)」(番号や種別を指定しない)が選択可能

3.5 アナログ入力のデジタル出力連動機能を改善

アナログ入力のデジタル出力連動機能について、「ON」と「OFF」に加えて「-」（制御なし）を設定できるように機能を改善しました。「起動要因設定_アナログ入力の設定」の「デジタル出力連動」の制御内容に、機能改善により追加した「-」（制御なし）の設定を行うことで、出力連動がONの状態であればONのまま、OFFの状態であればOFFのまま、何も制御しないように設定することが可能です。

検出時、デジタル出力連動に関する設定

大 ↑	閾値	設定値	デジタル出力連動			
			連動1	連動2	連動3	連動4
	閾値1	800% 16mA	ON	OFF	OFF	OFF
	閾値2	700% 14mA	ON	OFF	OFF	OFF
	閾値3	500% 10mA	-	OFF	OFF	OFF
	閾値4	300% 6mA	OFF	OFF	OFF	OFF
	閾値5	200% 4mA	OFF	OFF	OFF	OFF
小 ↓			OFF	OFF	OFF	OFF

ON/OFF/-（制御なし）が選択可能

以上